

# DIGITAL コーラス愛知

2026/2/22  
発行  
第7号  
愛知県合唱連盟

## ♪ 第78回全日本合唱コンクール全国大会 中学生部門・高等学校部門 2025年10月25日(土)・26日(日) オーバード・ホール 富山市

全国大会一日目、高等学校部門Aグループに出演した桜花学園高等学校合唱団は、『一音入魂（魂を揺さぶる感動の合唱）』を胸に、コチャールの「火のツィテラ」を独創的にふんわりと広がる柔らかな倍音で歌いあげ、銀賞を受賞した。Bグループに出演した愛知県立岡崎高等学校コーラス部は、『歌は訴う・響け心のハーモニー』を



モットーに、戦後80年の大きな節目の年に平和とは何かを見つめ直し、合唱を通じて戦争の悲惨さや愚かさを持てる声のすべてを対峙させて強烈なアイロニーで、高嶋みどりの「サリム自伝」を表現し銀賞を受賞した。

二日目、中学生部門混声合唱の部に出演した名古屋市立滝ノ水中学校合唱部は、音楽と出会えて良かったと「一期一会の合唱を目指す86人」が、新たな合唱表現に挑戦。この世には存在しない楽園・パライソと、あったことのない河童と蛙が共存する世界。自分とはどんな存在なのかを歌で問いながら滝ノ水ワールドを展開。見事、金賞・文部科学大臣賞を受賞した。同声合唱の部のトップバッターは、名古屋市立滝ノ水中学校グリークラブ。全国大会史上初となる、中学生35人の男声合唱団が多田武彦の「雨」と、信長貴富の「夕焼け」をメランコリーに歌いあげた。続いて名古屋市立萩山中学校合唱部は、「空」をテーマにした2曲を、息の流れを大切に、空の広がりや一瞬のきらめきを歌声に込めて演奏した。聖霊中学校聖歌隊は、メンバーの思い描くスロバキアの風景をホール全体に明るい声で響かせた。3校ともに銅賞を受賞した。



審査発表を待つ間は、中学生部門でも「歌回し」が復活。聖霊中学は賛美歌を清楚な歌声で披露、滝ノ水グリーは男声合唱定番の「いざ起て戦人よ」を高らかに歌いあげ、会場を盛り上げた。



## ♪ 第78回全日本合唱コンクール全国大会 大学職場一般部門

2025年11月25日(土)・26日(日) 佐賀市文化会館



大学職場一般部門には、室内合唱の部に「エシュコル」、同声合唱の部に「VOCI BRILLANTI」が、中部代表として出場しました。

1日目の室内合唱の部のトップバッターは「エシュコル」。透明感のある声で丁寧に間宮芳生の課題曲を歌い、自由曲では、ブスト、オルバーン、コスティアイネンの性格の異なる曲を巧みに歌い分け、一人一人の力量と表現力の豊かさを感じる演奏をされ銅賞を受賞しました。

2日目の同声合唱の部6番の「VOCI BRILLANTI」は、課題曲「かつて私は信じていた」を弾き振りで演奏。指揮者のピアノにメンバーが応える姿に

つながりの深さを感じました。自由曲「風のシンフォニー」では、音楽の自然なゆらぎを美しく描き出し、銀賞を受賞しました。

## ♪ 合唱、やろうぜ ～仲間と歌う喜び、人間の声が重なる美しさ～



第1日目のコンクール演奏が終わり、舞台に集まった合唱仲間は400人。

全国大会の特別企画として、エッシェンバルズさんの書き下ろした「This little flower」（この小さな花）※広島・長崎への原爆投下から80年にあたって作品を、作曲者自身の指揮で歌えるという最高の贅沢を味わうために、遠く佐賀までやってきた仲間たちです。

美しくシンプルな4声のハーモニーが、カノンで音を重ねていくと、最後には12声部の壮大なハーモニーを味わうことができる……この曲を、早く歌いたいという気持ちで、舞台の上は期待に満ちていました。

審査を終え、会場に姿をみせたエッシェンバルズさんは、ソビエト連邦領だったラトビア生まれ。氏が10歳の時にアメリカのホイットニーの曲をラジオで聴き、手に入らない楽譜を耳コピーで楽譜にし音楽の仕組みを勉強した。直接会っていなくても、音楽を通して「出会った」と話されました。そして、私たち自身も他者に影響を与えることができます。私たちはみんな「花」なのです。どんな花も必要な存在です。社会に問題を感じ、変えるべきだと思ふときはどうか一歩を踏み出してくださいと呼びかけられました。その後のリハーサルと本番では、音楽を通して平和への思いを伝えたい……そんな気持ちのあふれた演奏をすることができました。

## ♪ 第79回全日本合唱コンクール全国大会 中学生部門・高等学校部門

2026年10月24日(土)・25日(日) フェスティバルホール 大阪市

## ♪ 第79回全日本合唱コンクール全国大会 大学職場一般部門

2026年11月28日(土)・29日(日) 札幌市コンサートホール Kitara

# ♪ 名古屋フィルハーモニー交響楽団「第九」演奏会

2025年12月19日(金)・20日(土) 愛知県芸術劇場コンサートホール



1974年以来、今回で51回目の出演となった名古屋フィルハーモニーの「第九」。

本年は、2015年以来、10年ぶりに参加希望者全員へのオーディションの形で加盟合唱団から出演者を募集したところ153名が応募。

オーディション合格者129名の厳選されたメンバーで、9月5日から14回の練習を重ねました。

合唱指導は、本年より全体統括をお願いした藤森徹氏を

はじめ、神田豊壽、金原聡子、河辺泰宏の各氏が、持ち味を生かした指導にあたり、いつもより早めの11月7日に、川瀬賢太郎氏による本番指揮者練習があったこともあり、本番では、指揮者の表情豊かで力強い棒によく応え、好演をすることができました。コンサートホールを埋め尽くした満員のお客さまから「ブラボー!!」「合唱良かったよ」との声もいただき、至福のひとときを味わいました。

全体統括を務められた藤森先生と、第九歴の長いレジェンドを代表して市岡さん、若手大学生を代表して初参加の石橋さんからもメッセージをいただきました。

## 2025年度名フィル第九 藤森 徹 先生



河辺理事長より大役を引き継ぎ、今年度から統括指導者を務めることになりました。よろしくお願いいたします。

全員参加のオーディション、指導者交代と大きな変化のある年でしたが、ベテラン陣を中心に若手やエキストラの方々との相乗効果で素晴らしい演奏をしていただきました。名フィルの方にもお褒めの言葉をいただき大変嬉しく思っております。

次年度の第九もすでに名フィルさんからお話をいただいています。ぜひ、第九を歌ってみたい!という方の参加をお待ちしております。(特に学生さんとソプラノさん)ドイツ語がわからないという方もいらっしゃると思いますが、練習で必ず読めるようにします。

第九に触れておくことは、普段の合唱活動にもプラスになること間違いなしです。2025年の第九オーディションに残念ながら不合格となった方も、再度チャレンジしてほしいです。

愛知県合唱連盟の力を結集し、いい第九を演奏し続けていきましょう。

## 第九とわたし 市岡伸幸（名古屋市民コーラス）



小学生時代から歌好きだった私は、昭和25年、中学合唱部に入部を願ったが女声合唱団に男はいらないと断られた。止むを得ず演劇部に入部したが、幸いにも音楽劇（全て3年生による創作劇）に取り組むことになり、都度よい役を頂いた。クラシックにふれたのは、2年生の折に聴いた「中央アジアの草原にて」。高校では即合唱部に入れてもらい歌三昧となった。第九にふれたのもこのころ。NHKラジオ放送の立体放送で毎年大晦日には必ず聞いた。もちろんFMもテレビもない時代だった。

田舎のためチャンスがなく、初めて第九を歌ったのは1973年3月。故郷の中津川だった。岐阜県で一般合唱団が歌うのは初めてだと聞いた。1992年瀬戸市の第九、94年春日井市市制50周年記念演奏会、同年名古屋シティー、その後名フィル、中部フィル、TOMSなどでお世話になった。

第九発祥の地と言われる鳴門の演奏会にも数度参加し、ドイツ館・坂東俘虜収容所で人形による第九演奏会等を楽しんできたが、この催しも昨年で終わり残念です。

第九を歌い終えた達成感はそのつど違うはず、なれどどう違うかを全て記憶に留めるのは叶わず、充実感に浸っています。指揮者・オーケストラ・ソリスト・合唱団の皆さんに支えられ、同じ舞台上で感動を覚え、お聴きの皆さんにその思いを共有願えれば幸いです。

現在は、聴く第九から歌う第九に喜びを見出すようになり、「世界の友はみな兄弟となり、平和な世界を築くことができるよう歌い続けられたら」と願っています。

**alle Menschen werden Brüder wo dein sanfter Flügel weilt,**

## 第九に初めて参加して 石橋知大（愛知学院大学グリークラブ）



練習が始まった頃は、ドイツ語の歌い方になじむのにとっても苦労していたが、先生たちによる指導や、周りの先輩方の声を聴いていく中で、少しずつ歌えるようになっていく感覚に、やりがいをとっても感じました。

本番のオーケストラと共に歌う演奏は、自身にとって初めての経験で、その迫力や魅力を直に感じとることができました。自分にとっての初めての第九演奏会は、本当に楽しく演奏することができました。ありがとうございました。

**2026年 名古屋フィルハーモニー交響楽団「第九」演奏会**

**2026年12月18日(金)・19日(土) 愛知県芸術劇場コンサートホール**

**指揮：小林研一郎**

# ♪ 第32回愛知県ヴォーカル・アンサンブル 高等学校部門

2026年1月12日（月祝） 名古屋文理大学文化フォーラム中ホール



冬休み明けの三連休最終日に、高等学校部門のアンサンブルコンテストが行われました。混声合唱の部25 同声合唱の部30、計55グループが、お気に入りの曲を披露しました。

会場には朝から出演者のご家族、友人が大勢つめかけ一時は、満員御礼の賑わいとなりました。

最大12人のアンコンでは、たくさんの人数での歌う合唱と比べ、一人一人の力量アップが重要課題となります。クリスマスやお正月、冬休み……と続くこの時期に、練習時間を工夫して生み出し、本番に向けての練習を積み重ねてきたことを、最大限発揮した演奏をたくさん聴くことができました。

最優秀賞には「トラと信長」をコミカルで表情豊かに歌い上げた名古屋市立向陽高等学校合唱部の「ふんだらも一た」が選ばれ、6月の合唱祭での招待演奏と、3月に福島で行われるアンサンブルコンテスト全国大会に県代表として推薦されました。全国大会への意気込みメッセージをいただきました。



## 坂井奏介 名古屋市立向陽高等学校合唱部

ことばあそびを題材にした曲「トラと信長」。初めは楽曲の全体像がつかめず、音を出しても、どこに向かうのか分からないもどかしさがありました。気づけば、表現がどこか堅苦しくなっていました。仲間と音を重ねるうちに、遊びの中に広がる自由さや色彩が少しずつ見えてきました。本番では、その楽しさが自然にあふれ、会場と共有できたように感じています。同時に、緊張感とあそびをどのように響かせ、どう深く結びつけていくのかという課題も心に残りました。

全国大会では、この二つをより深く結びつけ、会場いっぱい届けられる演奏を目指したいと思います。

### 最優秀賞・全国推薦 混声合唱の部 金賞

けったましーん（向陽）  
歌う門には福来たる（愛知）

ふんだらも一たー（向陽）

気ままに歌お岡ココで（岡崎）  
春は西から（西春）

乗ろ岡コの流れに（岡崎）  
ふんだらも一たー（向陽）

### 同声合唱の部 金賞

Hikari du coeur（光ヶ丘）  
Hikari・Seagull（光ヶ丘）  
桜花輝煌 ベガ（桜花）

桜花輝煌 シリウス（桜花）  
せらふいむ（金城）  
けるびむ（金城）

桜花輝煌 スピカ（桜花）  
風よ東へ（西春）

※ コンテスト結果はこちら→ [愛知県合唱連盟 アンコン高校](#)